

北海道には、羊肉を食べる食文化があります。それは厳しい寒さをしのぐために羊毛を活用し、肉まで無駄なく食べてきた開拓期から続く歴史です。

そして今、北海道で再び羊の飼育が活気づいています。

大通ビッセから北海道の羊を見直そうと、北海道めん羊協議会 副会長

武藤浩史さん(茶路めん羊牧場代表)にお話を伺いました。

北海道では身近な存在の羊ですが、現在、全国には1万数千頭しかいません。しかも、その8割は道内で飼育されています。

羊肉は脂肪の燃焼効果のあるカルニチンや旨味成分などを豊富に含み、低カロリーでミネラル豊富。漢方では身体を温める効果があると認められ、冬の寒さ厳しい北海道に最も適した、女性にも嬉しい食材です。

羊飼いとっては、未来資源として羊の良さを知ってほしいと思っています。世界の歴史を探れば、羊は8千年前から人間の衣食住に余すことなく使える貴重で魅力的な天然資源として利用されていました。

羊毛は、セーターや洋服、フェルト製品、絨毯など用途も多彩で、再生が可能な天然資源であることも見直してほしい点です。また石鹸の起源も羊の脂です。洋楽器の弦やラケットのガットも、羊腸で作られていました。まさに無駄な部分がない貴重な資源といえるのが、羊です。

北海道の羊のこと、 もっと知ってみませんか？

羊が変える、羊で変わる。大通ビッセはこの秋、羊の可能性を提案します。

北国の羊の可能性を夢見て

羊の飼育を盛んにするために、種畜はニュージーランドなどから導入。羊は、草を食べ、羊の糞が土を育て、草が育つ。この土・草・羊の連携プレーが北海道の大地で味覚を作り、正に地産地消の羊肉が道内で約200戸の羊飼いに生産されています。健康で、鮮度を保った最高の状態で羊飼いに届けられることで、顔の見える信頼関係が生まれます。私達にとって「美味しかった」の一言がなによりも継続の力になります。もっとみなさんに羊から広がる衣食住文化に触れて、楽しんでいただき、やがて北国の風景に再び羊群がとけこむ日が来るのを夢見ています。



羊毛は衣類や生活用品

腸は 楽器の弦やソーセージの皮・ラケットのガット

羊ってすごい！羊の可能性

羊乳は チーズやアイス

肉は料理

油脂は 化粧品や石鹸・ハンドクリーム

期間中はイベント盛りだくさん！

BISSE北海道羊グルメフェスタ

10月28日(金)～11月11日(金) 羊をテーマにした、各店選りすぐりの逸品。詳しくは裏面をご覧ください。

毛糸紡ぎにチャレンジ！ 羊ワークショップ



「糸紡ぎ体験&デモンストレーション」

日時:11月5日(土) 13:00～15:00 会場:1階ホール
料金:100円(材料費として)

紡毛機の他、割り箸を使った簡単な糸作り体験！



「布フェルトの技法で創るミニストールづくり」

日時:11月6日(日) 13:00～15:00 会場:1階ホール
参加費:4,000円(材料費として)

シルクの布や羊毛を使ったフェルトのミニストールをつくります。



羊腸弦(ヴィオラ・ダ・ガンバ)コンサート

日時:11月6日(日) ①13:30 ②15:00 会場:2階ホール 演奏:サッポロ・ガンバ・コンサート(ガンバ&リコーダー)
曲目:コペラリオ「ファンタジー」、ダウランド「帰っておいで」他

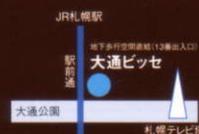
羊の腸で作った弦で典雅な音色を奏でるヴィオラ・ダ・ガンバのコンサート。古楽器による、いにしへの響きをおたのしみください。

■各ワークショップ、コンサートについてのお問い合わせ: 011-219-3988(北海道芸術文化コミッティ)

和みの雑貨が勢ぞろい。まよ羊クラフト「纏う羊展」

日時:11月1日(火)～11月14日(月) 10:00～20:00 ※最終日は18:00まで
場所:2階 YUIQ(ユイク)

羊の毛や皮革を使って素敵なファッションに!! 道内在住のクラフト作家14名によるファッション作品の展示販売。



札幌市中央区大通西3丁目
北洋大通センター
www.odori-bisse.com

BISSE 検索

